2017年1月24日（火）

日本経済新聞に掲載

性被害 男性が知ろう

愛知県警 高校生や社会人に講義

性被害の実態を知ってもらおうと、愛知県警が男性側の意識啓発に力を入れている。高校に出向いて男子生徒を相手に講義したり、社会人対象のシンポジウムを開いたり。同僚やパートナーが被害者にならないようにするため、女性の身を守る方法などを分かりやすく伝えている。男性側の理解を深めることで、性被害の減少につなげたい考えだ。

「性被害は決して君たちに無関係なことではない。いつか大切な人が被害にあうかもしれない」。愛知県警は昨年10月、県立一宮北高校で防犯教室を開いた。タイトルは「まさか、僕が…」。参加したのは1年生の男子生徒ら約130人で、話しやすい雰囲気にするため、講師役の県警の警察官を囲む形式にしたという。

愛知県警は男性向けの性犯罪防止教室に力を入れる（愛知県一宮市）

犯罪防止へ「女性守って」

最初、生徒らは緊張した様子だったが、次第に積極的に意見を述べるようになった。「性犯罪の犯人は許せない」「防犯ブザーをもっと普及させるべきだ」。生徒らはそれぞれの発言に熱心に耳を傾けた。参加した男子生徒は「同年代の被害者の多さに驚いた。普段から女性に付き添うことが大事だ」などと話した。

県警によると、男子生徒を対象とした性被害防止の取り組みは珍しい。2016年は同様の講座を県内約10校で実施。17年はさらに開催回数を増やす予定という。

県警は男子生徒だけではなく、社会人男性向けのシンポジウムなども実施している。昨年10月に名古屋市内で開いた「女性安全対策カレッジ」には、管理職を中心に約400人が集まった。

「視野が狭くなる夜間の歩きスマホは犯人の格好の的だ」「買い物も一人暮らしを悟らせないようにする工夫が必要」。専門医師や県警の警察官が性犯罪の手口やドメスティックバイオレンス（DV）被害の実態などを解説。出席したマンション管理会社社長の60代男性は「決して性被害は他人事ではない。従業員にも注意喚起したい」などと話した。

県警が、男性側の理解向上を図るのは、性被害が相次いでいることが背景にある。愛知県の性犯罪の認知件数はここ数年400件を超えている。

県警によると、シンポジウム開催後、県内の企業から性被害をテーマとした講演の依頼が相次いでいるという。県警幹部は「性被害を根絶するには、男性側が実態を理解することが欠かせない。男性に身の回りの女性を守る意識を持ってもらいたい」と話している。